

(9)  
於  
亞  
港

639

REEL No. A-0303

アジア歴史資料センター

秘

電信寫

昭和13

三六二八

暗

亞港  
本省

一月卅日前發  
卅日後着

歐

廣田外務大臣

田中總領事

第一一號

貴電合第三五二號ニ關シ（蘇聯人使用人數照會）

現在本件該當ノ蘇聯邦人ナシ但シ十一年十一月解雇セル當館邦人馬

丁ノ寡婦ノ露人ハ昨春拘引セラレタルヤノ趣ナリ（了）

本機密第一四號

昭和十三年二月二十日

在亞港

總領事 田 中文一郎

外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

當館ニ對スル「ソ」側ノ態度ニ關スル件

一 當館ノ護衛監視

當館ニ對スル「ソ」側官憲ノ護衛監視ハ巡警四人交代ニテ一人晝夜間斷ナク館側ノ歩道ヲ巡邏シ居リ「ソ」人ノ立止マルヲモ許サス本官々舍前方ノ市劇場ノ一角ニ専用電話ヲ架設シ報告連絡ニ利用シ居レリ

當館側面ノ街燈ハ特ニ高處三ヶ所ニ大電球ヲ付シ歩道ハ勿論構内ヲ照明シ居レリ

右ハ孰レモ昨年七月以來變化ナシ

ニ 醫療

外務省

(日本標準規格B5)

641

642

館員罹病ノ際ハ市病院ノ援助ヲ求メツツアルカ普通診察治療ハ「ボリクリニキ」ニ豫メ直接電話シ置キ又ハ簡單ナル當館ノ書面ヲ持參シ順番ニ依ラスシテ他ノ患者ニ先ンシテ診療ヲ受ケ居レリ  
自宅診察ハ昨年一月佐藤通譯生病氣ノ際直接人ヲ遣リ依頼シタルニ「ボリクリニキ」ノ内科醫來診セリ昨年九月本官病氣ノ際自宅治療ヲ直接及外交代表ヲ經テ依頼セルカ毒藥ヲ使用スルニ付病院以外治療不能ナリトテ應諾セス遂ニ入院セリ

右孰レノ場合ニモ料金謝禮ハ謝絶シテ受取ラス(病院ノ關係ハ在留邦人ニ對シテモ「ソ」聯人ニ先ンシテ診療シ無料ナルコト從來通りナリ)

ニ「ソ」側官憲ノ態度

イ、稅 關

「ソ」側各官廳中稅關ハ當館ト直接關係ヲ避ケ館員用物資輸入關係ノ如キ凡テ外交代表ヲ經由處理シ居リ今般或ル種ノ物資ノ關稅額ヲ

外務省

(日本標準規格B5)

問ヒ合セタルニ昨秋ノ場合トハ全ク異リ文書ヲ以テ拾留ノ手数料添付ノ上申越サレ度旨返答セリ

右様當館ノ問合セニ對シ之ヲ願書ノ形式ニテ手数料ヲ徴スルハ昨年四月漁業廳ニ對スル當館使用人ヘノ漁業許可方ノ際ニモアリ又八月當館館員官舎建築ノ場合モ同様ニテ孰レモ不許可ナリシニ不拘之ヲ徴セリ

□、郵便

昨年十二月當館員宛本邦雜誌ヲ沒收シテ配達セザリシモノアルニ付本官ハ四月十六日郵便局長ニ對シ取調方ヲ求メ且ツ外交代表ニ對シ十二月十六日付書面ヲ以テ右不法措置ノ根據指示方ヲ求メタルニ同官ハ一月初旬本官ニ對シ當館及當館員宛ノモノハ沒收セラルルコトナキ旨及十二月末ノ場合ハ誤解ニ基クモノナルコトヲ辯解シ其後右郵便物ハ從來通り故障ナク配達サレ居レリ

(邦人居留民宛ノ本娛樂雜誌ハ十二月以來沒收サレ居リ右ニ付本官

外務省

(日本標準規格B5)

抗議ニ對シ「ソ」側ハ右ハ「ソ」側ニ許容スヘカラサル記事寫眞等アルニ依ルナルヘシト答ヘタリ

電報ニ付テハ本省發電ハ長文ノモノハ一般ニ昨年ヨリ遲着ス

≡市役所共產經濟部ノサーピス

イ、此夏以來幾度カ直接及外交代表ヲ經テ依頼セル當館館舎修繕ハ市側ノ怠慢ニ依リ今日迄行ハレス「ペーチカ」修繕ニ對シテハ職人來ラス遂ニ外交代表ヨリ當地ニハ至急ノ建築アリ且ツ暖爐工不足ナルニ依リ土威鑛業所ヨリ援助ヲ受ケル外ナキ旨申出テタルヲ以テ當館ニ於テハ同方法ニテ所用ノ修繕ヲナシタリ

ロ、水道電燈ノ故障ハ直接其係ニ電話スルトキハ直ニ着工スルヲ常トス

ハ、燃料奪供給ハ不良ニシテ八月中注文シ置キタルモ搬入無キヲ以テ頗ル頻繁ニ督促シテ漸ク一、二噸乃至拾噸位迄ノ配達ヲ得ル實狀ナリシカ右ハ山元出炭及運送車及人夫ノ都合ニ依ルモノニシテ當局

外務省

(日本標準規格B5)

ノ惡意ニハ非サル様認ム  
右各種援助ハ先方係ニ於テ一々外交代表ノ許可ヲ受ケ居ル由ナルニ  
付外交代表又ハ他ノ官憲ニ於テ何等カ指圖アルニ於テハ其通り變化  
スヘシ

右報告申進ス

本信寫送付先 在露大使 浦潮總領事 「オハ」分館

外  
務  
省

(日本標準規格B5)

645

REEL No. A-0303

アジア歴史資料センター

山崎三郎

○印へ寫送付ノコト	要換文	海軍務	陸軍務	農林務	燃料局	日魯石	北嶺	月
		海軍務	陸軍務	農林務	燃料局	日魯石	北嶺	日送付済

電信寫

請和島 八七〇四 略 亞港 三月廿七日南發 本省 廿七日發着

原野外務大臣宛報告

在亞港 田中總領事宛

第四二號

「オハ」發着大臣宛電報第三三三號ニ附シ

廿七日外交代表ニ面會ノ際在「オハ」日本領事館ハ當地ヨリノ命ニ依リ鐵條網ヲ張ルコトトセル由ナルカ右承知ナリヤト問ヒタルニ地方官憲ハ最近地方民心ノ日本ニ對スル感情良シカラサルニ併シ萬一ノ場合ヲ顧慮シ保護ノ爲右様措置スルコトトセル趣聞及ヘリト答ヘタリ

尙當館ニ對スル監視ニ付テハ廿四日隣接地區内ニ電燈一箇ヲ増設シ

△ 津浦線内ヲモ照明シ得ル村ニシテ廿六日佐藤河野誕生ノ市内散步ニ見付ケルニ、  
△ 厨障ノ塙ノ鐵條網ハ從前ヨリ當館ニ於テ張繞ラシアリ  
○ 「オハ」ハ時時セリ

秘

昭和13 二五一八六 届

顯范 八月廿七日 前發  
本省 廿七日 後發

字類外務大臣

田中總領事

第一二〇號

本官發(傳)宛電報

第四三號

大臣宛貴電第一二二一號ニ關シ

電信寫

フアム  
在、この信  
係、

客年十二月當節及在留民宛書開雜誌殆ト全部開破セラレ申ニハ故取  
リタル形跡モアリ改竄、「キング」等ノ雜誌ノ配達無キモノアリタ  
ルニ付條制ノ注意ヲ喚起シタルコトアリ又客年六月以前ノ一週間後  
ニ、本年五月四日候ニ開送シ來レルコトアルモ最近ノ配達ハ概シ  
テ不良ナラス致念  
大臣へ特電セリ

647

電信寫

外務省

大分

昭和13 二六五五五

略

亞港 九月十日發  
本省 十日發着

厭

字通外務大臣

田中總領事

第一二七號

貴電第四四號ニ關シ(食糧輸入ニ關スル件)

十八日過ニテハ聞ニ合ハス大使免稅額ニ均等シ得サルニ付小柳領事

ニ於テ別ニ輸入ノ希望ナキニ於テハ託送御見合ヲ請フ(當方手持白

米備員分共十四俵)(了)

648



歐亞局

第一課

昭和三十二年拾月廿四日

本普通第一二一號

昭和十三年十月四日

在亞港

總領事 田中文一

外務大臣 公爵近衛文麿 殿



當地「ソ」税關ノ入露邦人ニ對スル所持金  
及身體検査ニ關スル件

九月二十日土威入港ノ石炭會社船吹雪丸ニテ本邦ヨリ同社西原常務取  
締役及土威鑛業所労働者十名並ニ其家族三名渡來セル處其ノ税關検査  
ノ際立會ノ税關「ソ」官吏ハ此等邦人ニ對シ身體ニ手ヲ觸レテ検査ヲ

川島  
村瀬  
公休  
行過

650

649

爲シタル上外國貨幣並ニ金時計所持ノ有無ヲ問ヒタル趣ナリ  
右ノ如キ検査振ハ當地ニ於テハ從來無ク全ク始メテノコトニシテ殊  
ニ西原重役ノ當地出張ニ關シテハ豫メ當館ヨリ當地外交代表ニ對シ  
便宜供與方申入レアリタルニ拘ラス斯ノ如キ取扱ヲ受ケタルハ意外  
トスル所ナリ

今後當方面へ渡航スル邦人ハ此點注意ヲ要スヘク右報告申進ス

本信寫送付先 在露大使

在「オハ」副領事

在亞港田中總領事發廣田外務大臣宛報告

廿七日外交代表ニ面會ノ際在「オハ」日本領事館ハ當地ヨリノ命ニ依リ鐵條網ヲ張ルコトトセル由ナルカ右承知ナリヤト問ヒタルニ地方官憲ハ最近地方民心ノ日本ニ對スル感情良シカラサルニ鑑ミ萬一ノ場合ヲ顧慮シ保護ノ爲右様措置スルコトトセル趣聞及ヘリト答ヘタリ尙當館周圍ノ塀ノ鐵條網ハ從前ヨリ當館ニ於テ張繞ラシアリ

外務省

13.8

651

REEL No. A-0303

アジア歴史資料センター

電信案

外務省

事案九月二十一日附費信注又品い本官赴  
任ノ際其ノ任ノキヤ否ノ以回電乞フ

(原議用紙乙)

公館通信

(分類)

電信案	外務省	田淵ヨリ	大使免稅額ノ領事彼ニ付スル分讓ニ付テ い目下莫斯科ニ於テ交渉中ニ在ルヲ仰給	電送第	28808	管主	電信課長			
				昭和	年	月	日	時	分	發宛
				略名	件宛					
				第四八號	食料品其ノ以テ方ニ同 同合々ノ件	田P. 總領事				
				(依報子報)	名件錄記	發				
						近衛大臣				

653

15 57

652

寫

歐亞局

公領機密第八三五號

昭和十三年十月二十六日

在哈爾濱

總領事 楊見

憲

在滿洲國

特命全權大使 植田 謙吉 殿

蘇聯總領事館日語教師ノ教授中止云々ニ關スル件

本件ニ關シ今般駐哈外務局特派員ヨリ十月十九日附同局長官宛秘第九三四號公信寫送付越セルニ付何等御參考迄別添ノ通進達ス  
本信寫送付先

外務大臣 在蘇大使

別紙添付 昭和十三年拾月廿壹日接

654

寫

秘第九三四號

庚德五年十月十九日

外務局長官 運升 殿

駐哈爾濱外務局特派員 下村 信貞

ソ聯總領事館日語教師ノ教授中止云々ニ關スル件

十月十八日本官他用ヲ以テソ聯總領事代理ゴルブツオフノ來訪ヲ求メタル際ゴハ本件ニ關シ頃來ソ聯總領事館ノ日語教師渡邊氏カ何故カ來館ヲ中止スルニ至リタルヤニ述ヘタルニ付本官ハ赤塔及武市領事館ノ露語教師ハ官憲ノ妨害ニ因リ幾久シク領事館ニ寄附キ得サル

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

655

狀況ナル旨指摘シソ側現地ソ聯官憲ノ注意ヲ促ス様要求セル處ゴハ  
現地官憲ニ照會スヘシト答ヘタリ  
右報告ス

本信寫送付先

赤領、武領

日領、哈機、哈憲、濱警、哈警

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈外 №148

656

歐亞局

藏稅第三八四〇號

昭和十三年十月二十六日

大藏省主稅局長 大 矢 半次郎



外務省歐亞局長 井 上 庚二郎 殿

本月五日附歐一機密合第四六四六號ヲ以テ御通報相成候「ソ」聯國稅  
關ノ通關検査執行方ノ件ニ關シテハ我方ニ於テモ本月六日各省協議會  
ノ際ニ於ケル貴省御申出ノ趣旨ニ依リ別紙寫ノ通各稅關長宛通牒致置  
候ニ付右御了知相成度此段及通報候也

規格 B 5 (13.7.一色納)

大 藏 省

藏稅第三八四〇號

昭和十三年十月二十六日

大藏省主稅局長 大 矢 半次郎

各 稅 關 長 宛

「ソ」海關稅關ニ於ケル通關檢査執行方ノ件ニ關シ別紙寫ノ通外務省ヨリ情報有之候ニ於テモ爾今之ニ對應シテ嚴重檢査相成候度此段及通關候也  
追テ之カ檢査ニ抗議ヲ申立ツル者有之候節ハ「ソ」海關稅關ノ措置ニ對應シテ相互主權ニ依リ執行スルモノナル旨寫ト了承センメラレ盛申添候

大 藏 省

規格 B 5 (13. 7. 一色納)

658

歐運屬

歐運屬

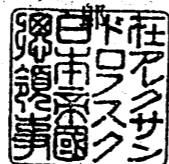
第一課

本普通第一五二號

昭和十三年十二月四日

在亞港

總領事 田 中 文 一



外務大臣 有 田 八 郎 殿

當地稅關ノ當館ニ對スル態度ニ關スル件

當地稅關ノ當館ニ對スル態度ハ從來ニ比シ更ニ惡化シ非友好的ナルモノアルカ其事例左ノ如シ

一、當館員手荷物ノ檢査ニ付テ

十一月十一日汽船隆安丸ニテ到着セル當館田淵書記生及佐藤通譯生夫

659

妻携行手荷物ノ税關検査ハ甚タ嚴重ニシテ三時間餘ニ涉リ各品ヲ仔細ニ検査シ佐藤通譯生携行ノ雜品及化粧品ハ一定量以外食料品ハ全部及藥品ニ課税セントセルヲ以テ極必需品ノ外ハ内地ニ返送スルノ止ムナキニ至レリ

ニ館員用食料品ノ通關ニ付テ

十一月十一日土威入港汽船隆安丸ヲ以テ輸入セル當館員用飲食品ノ通關ニ當リ豫メ本官ヨリ外交代表代理ニ對シ右許可方及簡易通關方申入置タルニ不拘税關ハ

(一)從來石炭會社ヨリ提出セル案内書ニ依リ検査セルカ十五日ニ至リ當館ヨリ書面申告ヲ要求シ規定ノ通關日數ヲ遙ニ超過シ

(二)検査濟物品ハ關稅支拂ノ上初メテ交付スヘントシ右稅額ヲ二十日

外交代表所ヲ經テ送付シ來ル

(三)課税ニ際シ

(イ)味噌及根生薑ノ如キ從來ト適用關稅率條項ヲ變更シ味噌ハ從來ノ第三條(一疋ニ付三哥)第四條(從價二〇〇%)根生薑ハ從來ノ第五條最低額(從價一〇%)ノ代リニ同條最高額(一疋百留)ヲ適用シタル爲メ後者ハ之ヲ沒收處分ニ遺棄セサルヲ得ザリキ

(ロ)檢量ニ付テモ米ハ從來正味五十六疋又ハ五十七疋ト計算セルニ今回ハ俵ヲ含メテ六十六疋トセルハ仕方ナキモ林檎ヲ風袋共課税セルハ不當ナリ

右ニ對シ訂正方ヲ申入レタルニ税關ハ從來ハ大使免稅額ノ計算ナル

ニ依リ多少自由裁量ニ依リタルモ今回ハ税金ヲ徴收スルニ付殊ニ慎重ニ出テ從來ノ過誤ヲ訂正セル次第ナリト答ヘタリ  
三、館用品ニ付テ

右食料品ト同時ニ輸入セル當館用品中「來電用紙」一千枚「タイプライター」用紙 BII 二千枚及「カーボンペーパー」五函ニ對シ ПИСЬМА ДЛЯ ПИСЬМА シテ第一一三條ニ依リ一廷三百留計二千八百五十留ノ關稅ヲ課シタルニ依リ來電用紙及「タイプライター」用紙ハ外國領事館公用 ОДИННАДЦАТИ ОДНАКИニシテ無稅通關セラルヘキモノナルコトヲ申入レタルニ再検査ノ上來電用紙ハ無稅通關セシメタルモ「タイプライター」用紙ハ館名ノ刷込無キヲ以テ公用紙ト認め難シト云ヘリ依テ田淵書記生ヨリ稅關長ニ對シ本官ヨリ外交代表代理

662

663

ニ對シ右ハ一定形式ノ日本在外公館用ニシテ特別註文ニ依リ印刷セルモノニシテ館名ノ刷込ノ有無ニ不拘公用品ナルコト自明ニシテ殊ニ紙型及印刷ノ枠及記號等ニ依リ他ニ流用シ得サルモノナルヲ以テ公用紙ト見做スヘキモノナルコトヲ説明セルモ稅關ハ上司ノ指令ナクシテハ一存ニテ取計兼ネル旨回答アリ（「カーボンペーパー」ハ交渉ノ上函ヲ除キ正味ノミヲ計量シ數共三十六留ヲ支拂ヒ引取ルコトトセリ）

右ニ付本官ハ四日外交代表代理「サベヨルキン」ニ對シ若シ稅關ニ於テ「タイプライター」用紙ニ課稅スルカ如キ場合ニハ當館ハ之ヲ返送スヘク其際稅關ハ検査及課稅ノ決定ヲ速ニ行ハス便船ノ有ル間ニ返送手段ヲトル能ハサランメタルヲ以テ二ヶ月ノ期間ニ引取ラサ



レハ沒收スルトノ規定ヲ適用スルコトハ承認出來サルヘシト念ヲ押  
シ置キ且ツ今回當地稅關ノ當館ニ對スル態度ハ餘リ嚴重ニシテ非友  
好的ナリト認メサルヲ得サル旨ヲ述ヘ置キタリ  
右報告申進ス

本信寫送付先 在露大使

在浦潮總領事

664

極秘

電信寫

分館

昭和十五年 三月十七日

東京 十二月十日 夜  
十一月 前夜

田中 經 領 事

2

石川 外務大臣

第一五七號 入直 密

今般當部員 入食 計 品ニ付スル 因置ハ 証 文 及 前 部 台ニ 取リ 各 日  
 別 圖ニ 計 算 シ 各 年 六 千 圓 約 ラ 支 拂 ヒ タル 處 十 日 前 備 用 紙 支 取 ノ 際 概  
 白 紙 六 圓 圓ニ 割 シ 定 率 ノ 算 算 ハ 石 炭 賣 社 ヨリ 銀 通 ヲ 交 ケ タル モ ノ ナ  
 リ ヤ ト 問 ヘ ル フ 以 テ 答 ト 答 ヘ タル ニ 然 ラ ハ 銀 行 通 出 送 金 ノ モ ノ ナリ  
 マ ス 一 外 支 手 何 向 ト シ テ 持 込 ミ タル ヤ ト 尋 ネ タル ニ 取 リ 目 分 入 來 止  
 目 録 ク 應 ク 知 ラ サ ル モ 總 領 事 ヨリ 交 ケ タル モ ノ ナリ ト 答 ヘ タル ニ 充  
 分 ハ 一 寸 間 イ ナ 氣 取 リ ナリ ト 言 ヘ ル 心 ナリ

石川 外務大臣「ウマニツ」ハ 取 締 ニ シ テ 一 般 石 炭 賣 社 人 員 ノ 事 前  
 二 週 前 迄 近 ハ 取 方 ニ 對 シ 嚴 密 ノ 取 扱 ヲ 為 セ ル モ ノ ニ シ テ 今 同 等 任 務  
 目 録 任 務 ニ 對 引 出 入 為 セ ル 出 入 ル カ 取 ハ 平 面 局 ニ 對 等 カ 問 題 ト  
 ナ ル ヤ モ 知 レ サ ル ニ 付 石 川 外 務 大 臣  
 對 外 通 信 局 へ 傳 達 セ リ

公館

懸案

文書課發送 昭和拾四年壹月廿四日發送濟 印書 正校(原稿) 昭和十四年 壹月 廿四日 起草	主 任 第一課 歐米局長	受 信 人 名 大藏省 大矢主税局長	件 名 在亞港帝國總領事館ニ對スルハノ辨税関ノ態度ニ関スル件 本件ニ關シ今般在亞港田中總領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス 本信送付先 (昭和十四年十二月四日附在亞港總領事館來電第一五二號寫單附屬書寫)
	歐一普通 第七六號 昭和拾四年壹月廿四日附屬	發 信 人 名 井上政五局長	記 録 件 名

23 34

66

(分類)

電 信 案 外 務 省	主 任 第一課 在浦島 七田徳信 在亞港 山手徳信 在万八 多田徳信 現地、ソノ官守、取扱振 寄附方、件。	電 送 第 1379 號 昭和十四年 壹月 十九日 發 時 分 發	昭 和 十 四 年 壹 月 十 九 日 起 草
電 信 課 長	名 件 宛 合 第 一 〇 〇 〇 號	記 録 件 名 在浦島 七田徳信 在亞港 山手徳信 在万八 多田徳信	昭 和 十 四 年 壹 月 十 九 日 起 草

19 83

666

電信寫

公館 1. 3. 3. 1-

昭和四年 四月十九日

亞港 二月十九日 前發  
本省 十九日夜着

歐、文書

有田外務大臣

田中總領事

第一八號

本官發「オハ」宛電報

第三號

實電第三號ニ關シ

十六日外交代表團ニ對シ實電ノ實情ヲ述ヘ例ヘハ飛行機便數ヲ増  
スカ又ハ普通郵便種ヲシテ遞送セシムルカシテ右ノ狀態改善方ヲ申  
入レ置キ十九日田淵ヲシテ返答ヲ求メシメタル處同官ハ州通信部長  
ト話シタルニ實地ヨリ當地ヘノ郵便物ハ毎日發送スルコトナリ居

ルニ付日本向郵便モ遲滞ナク當地ヘ發送スル様實地郵便當局ニ指令  
スヘシトノコトナル旨答ヘタル趣ナリ  
大臣へ轉電セリ

秘

公使

電信寫

昭和14 一九五七 略

血港 一月廿一日後發  
本省 廿二日前着

歐

有田外務大臣

田中總領事

第四號

貴電合第一二三號ニ關シ(現地僻官憲ノ取扱振報告方ノ件)

査察ノ態度ニ付テハ客年本機密第一四號及第五二號拙信報告ノ通り  
ニシテ其ノ後誤リタル點ハ「ゲ、ベ、ウ」尾行ハ使用人ニ迄附キ館  
員「スキー」ニ過クトキハ「スキーヤー」ノ尾行アルモ不快ノ言動  
ナク寧ロ警衛人トノ接觸ヲ防キ當館使用人ヲ保護スル方ナリ當館監  
視ノ民警ハ各期ニ入り街路ヲ隔テタル小屋内ニ居リ從來ノ如ク當館  
側ヲ巡視シ居ラサルヲ以テ煩サカラス使用人ノ居住券交付ノ際ハ本

人ノ出頭ヲ求メタルモ十一月八日代人ニテ事済ミ一般ニ民衆及尾行ハ  
一言モ話シ掛ケルコトナク館員カ不快又ハ忌地惡ノ取扱乃至態度ソ  
受ケタルコトナシ  
郵便物中雜誌ハ常封ヲ破リ検査シアル形跡アリシヲ以テ十二月本官  
ヨリ外交代表ノ注意ヲ喚起シ直キタリ税關ノ態度ハ客年本機密第一  
五二號拙信報告ノ通りナルカ夫レ以外ニハ燃料供給、家屋手入ノ如  
キ前年ヨリ幾分「サービス」供與方ニ關スル外交代表署ノ援助モ相  
當ニシテ郵便電信局員、商店員及一般市民ノ態度寧ろ好意的ニシテ  
不快ノ言動ヲ爲ス者ナシ(了)